

農林水産大臣賞(地域振興部門)

株式会社 げんきの郷

～都市近郊において農業と地域を活性化させる地産地消の複合拠点施設～

代表者：代表取締役 鈴木忠由 構成員：取締役7名、監査役2名、正社員45名、パート等187名
所在地：愛知県大府市 生産者727名
活動開始年月日：平成12年3月

表彰理由

都市近郊地域において、地場農産物の直売所、加工販売施設、農村レストランなどからなる地産地消の複合拠点施設を中心として、生産から加工、流通、販売、消費に至る地産地消の新たなシステムを構築。これによって、地場農産物の生産増加や農業所得の向上、後継者や新規就農者の確保等、地域農業の振興へ大きく貢献。また、観光拠点としての役割を持つなど、農・商・工・観光連携の取組としても優れた取組。

出荷者が交代制で出荷物検査を行うほか、生産履歴記帳の義務づけ、残留農薬検査の受検、食品加工品自主細菌検査の実施など、食の安全対策の徹底を図っているほか、学校給食や空港など幅広い分野における地産地消、収穫体験・加工体験を通じた地域の福祉や教育への寄与

取組内容

1 直売所・農産加工等都市農村交流複合施設の取組

平成12年に開業して8年、安全安心な農産物の提供や、生産者と消費者との交流等により、顧客の確保に努め、現在では直売所の年間売り上げは約19億円で、利用者は210万人を超えており、全国的にみても有数の直売所。

小規模・高齢農家に現金収入の機会を創出したほか、年間1,000万円以上の売り上げのある出荷者も生み出し、Uターン後継者や新規就農者の確保につながり地域農業が活気づいている。

「安全対策基金」を創設し、残留農薬検査の費用を基金負担とすることにより、受検が増え、安全安心な農産物の出荷への意識高揚につながる。

加工販売施設では、農村女性の起業グループによる手作り惣菜や地元大豆や野菜を使った豆腐、漬け物などを製造販売し、食文化や地場農産物のPRを図っている。

2 学校給食や空港への取組

学校給食や空港内のレストラン等に洗浄・カット済農産物等を供給するなど、地域に関係するあらゆる場面への地場農産物の供給を積極的に進め、地域農業の振興に貢献。

3 地域・消費者との交流

近隣の農地を利用した「農と食の体験イベント」を毎月実施し、収穫体験等を通じて生産者と消費者の「顔が見え、話ができる」関係を構築。

生産者出荷組織代表者と利用者会員組織との意見交換を実施し、そこで得た消費者要望を生産に反映。